

ひかりのこ

4月園便り

聖ミカエル幼稚園
2018年4月10日

月主題：包まれる

厳しかった北海道の冬もあっという間に過ぎ去り、ワクワク心踊る春がやってきました。

新入園の皆様、ご進級の皆様、おめでとうございます。こすもすさんはひまわりさんへ、ひまわりさんはいよいよ、すずらんさんへ進級します。そして、ひまわりさん、すずらんさんと私たち教職員は、今年も、小さな、かわいいこすもすさんと、年中長の、新しいお友達を迎えることができる喜びで、いっぱいです。

ご父母の皆様、昨年度は大変お世話になりました。3月にはたくさんのお母様方から、私たち教職員に励ましとねぎらいのお言葉をいただきました。なんと、園長の私にも、こすもすのお母様方から、お子さんのビデオメッセージをいただき、感無量でした。

私たちの仕事は、もちろん「仕事」「使命」として行っているのですから、仕事をして「当たり前」なのですが、温かなお気持ちで私たちを見守ってくださっていることが伝わると、明日への勇気が湧いてくるものです。「ああ、この仕事をしてよかったなあ。」と思うものです。本当にありがとうございました。

今年度入園されるお子さんのお父さん、お母さん、お子さんだけでなくお父さんお母さんもぜひたくさんお友達を作ってください。子どもたちが人を信用し、心を通わす喜びを知るためには、一番身近にいる大人が、人を大切に思い、心を通わせるお手本を示すことがとても大切です。

私たち職員もそうです。園長や主任を中心に、力を合わせて保育に当たる姿こそが、子どもたちへの良いお手本と考えています。聖ミカエル幼稚園に関わる全ての大人が、子どもたちのために心を尽くして働き、子どもたちがすくすく成長しますように。みんなで素敵な聖ミカエル幼稚園を作っていきましょう。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

ご入園、ご進級おめでとうございます。

この春、初めて幼稚園に来られる保護者の皆さんは、期待と不安をお持ちのことと思います。そこで少し、聖ミカエル幼稚園のバックボーンをお話したいと思います。幼稚園の母体は聖ミカエル教会、そして聖ミカエル教会は、日本聖公会北海道教区という教会組織に属しています。今から150年近く前、日本が開国して間もなく、イギリス国教会の聖職者が函館に上陸、聖公会という名称で活動を始めました。

道内各地で多くの教会、講義所を開設しましたが、同時に、宣教師たちはこどもの教育、特に女子教育を重視していくつかの学校を設立しました。当時、日本はまだ強い男性中心社会で、女性の教育の必要性はあまり認められなかった時代です。しかし、その頃から教会は、女性が活躍する時代が到来することを期待して、資産を投じて熱心に教育活動を展開したのです。また、幼児教育も今のようにしっかりした制度がない頃に、教会の日曜学校に多くのこどもたちが集まり、西洋の文化に触れたり、聖書の人を大切にすることを学んでいました。そのような営みの積み重ねの上に、この幼稚園を含む道内の5つの幼稚園、4つの保育園があり、いつも連携しながら、日々、保育の向上に励んでいます。

「自分を愛するように隣人を愛しなさい」、「こころを尽くして神を愛しなさい」。これがキリスト教の最大のテーマです。同時に、なかなかたどり着けない問題でもあります。でもあきらめず、そこに少しでも近づこうとすることが、キリスト教保育、教育の大切な目標でもあります。私もお子様たちとともに成長していきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

チャブレン 司祭 下澤 昌